

マニフェスト (宣言書)

MANIFESTO

新クリスチャン・ローゼンクロイツの
化学の結婚

New Chemical Wedding
of Christian Rosenkreutz
1616 - 2016



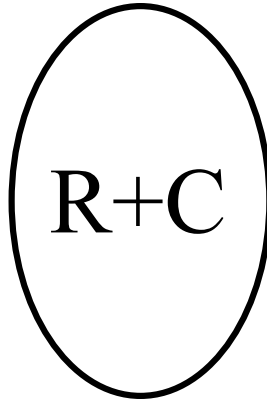
Cosmica lex successit !



Antiquus Mysticusque Ordo Rosae Crucis

マニフェスト (宣言書)

MANIFESTO



新クリスチャン・ローゼンクロイツの化学の結婚

1616 - 2016

**The New Chemical Wedding
of Christian Rosenkreutz**

初版発行：2016年1月
First edition: January 2016

Copyright © 2016 バラ十字会 AMORC 世界総本部

© Supreme Grand Lodge of AMORC
All rights reserved

発行：バラ十字会日本本部AMORC
www.amorc.jp

マニフェスト (宣言書)

MANIFESTO

あなたがこの宣言書を読み始められる前に、まずは著者である私の自己紹介をさせてください。過去に私はクリスチャン・ローゼンクロイツという名前で、バラ十字会を創設した伝説の人物として知られていました。バラ十字会は会員制の団体であり、秘伝哲学を研究している歴史家たちは、その始まりを17世紀の初頭としていますが、その伝統はそれよりはるかに古く、古代エジプトの神秘学派にまでさかのぼります。

1614年に公表された『バラ十字友愛組織の声明』(Fama Fraternalitatis)には、私がなぜ、どのようにして世界中を探索し、当時の優れた賢者たちに学び、ついにバラ十字会を創設するようになったかが詳しく説明されています。もともとは、ヘルメス学や錬金術やカバラに精通していた少人数の集まりであったバラ十字会は、その後発展し続け、適切に継承されて今日に至っています。私はバラ十字会の創設者として、この会の行く末を、時には非物質的な領域から、また時には地上で暮らしながら、ずっと見守り続けています。

第2の宣言書は、『バラ十字友愛組織の信条告白』(Confessio Fraternalitatis)であり、翌年の1615年に公表されました。ここで詳しく述べることはしませんが、この宣言書は『声明』の内容を発展させ補足したもので、私が創設したバラ十字友愛組織の規則と役割を明らかにしています。そして『世界の書』(Liber Mundi)に関連して、錬金術の真の目的と、バラ十字会員たちが保持している、人類が精神面において再生をなし遂げるための知識が明かされています。

第3の宣言書は1616年に公表され、先の2つの宣言書に加えられました。今までとは異なるスタイルのこの宣言書には、バラ十字会を創設した当時に、私が夢で見た話が書かれています。私はこの夢の中で、7日間に

わたる入門儀式の旅をしました。そしてその最後で、神秘的な城で催された、ある王と女王の結婚式に招かれたのでした。錬金術にまつわる事柄がいたるところに散りばめられているこの象徴的な夢には、数多くの解釈がなされていますが、それらの解釈の中には、深い感銘が得られるインスピレーションの源になるものもあれば、不自然なものや、取り上げるに値しないものさえあります。現在の人生について申し上げますと、私は1982年12月13日に「光の都」すなわちフランスのパリで生まれました。この都市で1623年にバラ十字会員たちは、街のあらゆる通りにポスターを貼って、自分たちの存在を公表したのでした。そのポスターには次のように書かれていました。

「我々、バラ十字高等学院の評議員は、公然と、また密かに、この街に滞在している。それは、正義を貫く人々が心を寄せる〈最高位の方のご厚意〉によってである。我々は出版もせず、目立った外観もしていない。ただ、滞在の地に選んだ国々のあらゆる言葉を話し、我々の哲学を教授するのみである。それは友人を、死の過ちから救い出すためである。」

「ただの好奇心から我々に会いたがる人には、決して我々を見いだせまい。だが、我々の友人として登録されることを真剣に願う人に対しては、我々はその思いを判定し、我々の行う約束が真実であることを見られるようにする。それでも、この街の集会場所は知らせない。なぜなら、探し求める人が心から望むならば、その思いが我々を彼のもとへ、彼を我々のもとへと導くからである。」

私は自分が誰かを明らかにすることを望んでいないので、私がどこに住んでいて何をしているのか、そして私の身元がわかるようなことについては、何もお伝えすることはありません。友愛組織の仲間と私が、自分たちのために定めた規則に従って、私は“不可視”(invisible)でいなくてはなりません。おそらく私とあなたとは、いつの日かお会いすることになるでしょうが、もしそうだとすると、私の方からあなたに近づくことになり

ます。しかし、私が〈バラ十字〉に無条件の愛をいただいていることと、私が最終的に〈宇宙の魂〉(Universal Soul) との最終的な合一を果たすまでは、今もこの先もずっと〈バラ十字〉が、私の心を導く道であることを、あなたに知っていただきたいと思います。

本当のところ、この文章を書くために、わざわざ時間と労力を費やそうなどとは考えていませんでしたし、そのようにする差し迫った必要を感じてもいませんでした。ところが、2015年3月20日の夜、新たな春が到来した第一日目のこと、この夢の内容と本質について書くように突如として駆り立てられたのでした。それが読むに値するかどうかは、どうぞあなたのご自身で判断してください。私は寝室に入り、たった今終わりを迎えたその日について瞑想をしました。そして、この一日が自分にとって有意義なものであったと感じ、眠りにつきました。そして深い眠りへと落ちていったとき、高さが3メートルほどで、厚さが数センチのガラス製の卵の中に自分がいることに突然気づきました。とてつもなく美しいこの卵は、どこまでも透明で、完全な対称形で、滑らかな壁面をしていました。私はまるで、空中に浮いているかのように卵の中央に立っていて、これまでに経験したことのないほどの快適さを感じていました。

驚きが収まるとすぐに、私はその卵を念入りに観察してみました。すると、ガラス製の卵の上の方の外側には、一定の間隔をおいて塩と、水銀と、硫黄を表わす記号が刻みこまれていました： \ominus ♀ \triangle 。それらは、線で結ぶと正三角形になるように配置されていました。

卵の中央ほどの高さには、大地と空気と水と火を表わす記号が刻まれていました： ∇ \triangle ∇ \triangle 。そしてこの4つは、卵の周囲に、あたかも正方形を形作るように配置されていました。

卵の下のあたりには、外側に等間隔でヘブライ文字のアレフ、メム、シンが配置されているのを見て取ることができました： \aleph μ ψ 。これらもまた、結ぶと正三角形ができるように配置されていました。

また、卵の頂上の曲面には、王冠をいただくかのように、太陽を表す記号が刻まれ、卵の底の曲面には月を表す記号が刻まれていました。

卵の頂上から底へと向かうように、私から見て左側には「***Ad Rosam per Crucem***」と、そして右側には、底から頂点へと向かうように「***Ad Crucem per Rosam***」と書かれているのを読むことができました。これは、秘伝哲学で慣用的に使われている表現であり、バラ十字会員にはおなじみの言葉ですが、これ以上詳しいことを述べるのは、ここでは差し控えることにします……。



第一の段階

Lunae auspiciis... (*1)



突然、卵はゆっくりと垂直に上昇し始め、しばらくすると静かに止まりました。この上昇がどれほど続いたのかは、言葉で表わすことができないのですが、別の空間へと連れて行かれたように感じました。それを確信したのは、周囲を見回してみると地球が見えたからです。驚くほど美しいこの光景を見ていると、地球がなぜ「青い惑星」と呼ばれているのか、宇宙飛行士たちが宇宙船や宇宙ステーションから地球を眺めたときに、なぜそれほどまでに圧倒されるのかが、よくわかった気がしました。それは、神が存在するということがもはや疑うことができないとさえ感じられるほどでした。深く物思いに沈んでいると、優しく静かな声はどこからともなく聞こえてきました。

「月のなす、大いなるわざをごらんなさい。あなたがその一員である人類は、自然界との絆を取り戻し、自然界との完璧な調和を保ちながら暮らしています。人間はついに、住む権利を得ているこの惑星が自分たちの母であること、深い愛と尊敬を向けてきた動物たちが、自分たちの兄弟姉妹であることを理解しました。さらに好ましいことに、地球に住んでいるすべての生き物には、宇宙の魂を宿すという役割があり、個々の生き物が、それぞれの方法とそれぞれのレベルで、宇宙全体の進化のために役割を果たしていることを知っています。」

声の主を見定めようとしていると、前方のそう遠くないところに、銀色がかった精妙な光でできた人影が見えました。この光景に好奇心をそられると同時に立ちすくんでしまったのですが、目の前に見ている、そののどかな光景のことをどのように理解すべきなのかを思案していると、卵が、

いまだに私はその中に浮かんでいるようなのですが、再び上昇していったのです。

*... Cosmica lex successit ! (*2)*

-
1. 月の保護と助力のもとに。
 2. 宇宙法則は成就する。

第二の段階

Martis auspiciis... (*3)



どのくらい時間が過ぎたのかは言葉にできませんが、再び卵が静かに止まりました。そして私が目の前に見たものは、私を釘付けにすると同時に深く感動させたのですが、それは地球のさらに広大な眺めでした。心を満たされつつ、じっと眺めていると、見たこともないほど美しい赤色の精妙な光でできた別の人影が現れました。それは私の方を見ながら、礼儀正しいけれども力強い声で、こう言いました。

「火星のなす、大いなるわざをごらん下さい。世界中の経済の活動は活気にあふれていて、すべての人の幸せに役立ち、それゆえに社会は平和で協調しています。ひとつの通貨をもとにした経済の活動によって、さまざまな国々^{うなが}の間の貿易が促され、国々は統合されつつあります。もはや、物の不足・貧困は存在しません。物質面において望ましい状態で暮らし、幸せであるために必要なものを、すべての人が手に入れています。」

地球を見つめながら、精妙な存在が語ることを聞いていると、ガラスの卵がかすかに赤みがかってきたことに気づきました。しかし、卵を通して見ている景色には何の変わりもありませんでした。また、ガラスの厚みが、先ほどよりいくぶん薄くなってきたようでしたが、たいして気にもしませんでした。私はとても快適に感じており、えもいわれぬ軽やかさを体験していたのでした。

... *Cosmica lex successit !*

3. 火星の保護と助力のもとに。

第三の段階

Mercurii auspiciis... (*4)



卵が3度目に静止したとき、この「宇宙の階層」から見えた景色は、美しいだけでなく、あらゆる点で荘厳で、いくぶん熱狂した世界のような感じがしましたが、それにもかかわらず安らぎに満ちていました。あえて言うならば、秩序のある混乱というような印象でした。光でできた別の人影が、オレンジ色にキラキラと輝きながら現れ、以下のことを私に明かしました。

「水星のなす、大いなるわざをごらんなさい。地球に住んでいる男性も女性も、世界の市民であるという自覚のもとに行動しており、協力、分かち合い、団結、共有などの関係から生じる、望ましいあらゆる特徴が行動に表れています。世界政府が存在していますが、いかなる意味でも、各国の統治がそれに置き換えられているわけではなく、世界政府によって、それぞれの国の統治権が守られ、国家同士の建設的な議論が促されています。グローバル化（Globalization）は、長いこと批判され懸念されてきましたが、今やグローバル化によって、すべての人々のために、団結と相互理解と社会の進歩がもたらされています。」

夢のこの時点で、この風変わりな上昇はまだまだ続くのだということを私は確信し、壮大な光景によって心の奥にさらに歓喜があふれました。しかし、どこへ連れて行かれるのかは、まったくわかりませんでした。そのため好奇心と期待でいっぱいになりつつ、私は次の段階へと近づいていきました。地球からは目を離すことになりました。もっとも、それが本当の地球かどうかは実際にはわからなかったのですが。

... *Cosmica lex successit!*

4. 水星の保護と助力のもとに。

第四の段階

Jovis auspiciis... ^{(*)5}

4

再び上昇が始まろうとしているときに、卵はさらに赤みを帯び、それと同時に、その壁はますます薄くなっていきました。そしてひっくり返って、上の部分が下に、下の部分が上になりました。奇妙なことに、どのような驚くべき方法によってそうされているのかは分かりませんが、中にいる私の体には何の影響もありませんでした。私はさかさまになることなく同じ位置に浮かんでいました。この上昇は、前の上昇よりも、はるかに短い時間で終わったように思えました。それはあたかも、体が運ばれたというよりも瞬間に移動したかのようでした。先ほどと同じように、視界がますます広くなり、地球のことを全体的に、はるかな遠くから見ているように感じました。そのとき、私の心の奥が何を理解したのかを、言葉にすることはできません。そして先ほどと同じように、精妙な光でできた人影が現れました。そこから発している青みがかかった輝きが、周囲を満たしている星々の青い光と混ざり合いました。その人影から、次の言葉が聞こえてきました。

「木星のなす、大いなるわざをごらん下さい。すべての国と地球全体が、英知によって統治されており、人間同士の関係は、お互いに信頼しあい、尊敬しあうことに基づいています。特定の個人や主義に固執する、視野の狭い政治の時代は、はるか昔に過ぎ去りました。ご覧下さい、政治は哲学と切っても切り離せないものとなり、その唯一の目的は、すべての人々の正当な要求と望みに、分け隔てなく^{こた}応えることになっています。」

... Cosmica lex successit !

5. 木星の保護と助力のもとに。

第五の段階

Veneriis auspiciis... ^(*6)



先ほどの瞬間移動のような感覚が再び起こり、卵が止まりました。卵の厚みはさらに薄くなり続け、ガラスが水晶に変わったかのように思えました。赤みがかった色はさらに際だってきたのですが、外の光景には何の影響も与えず、さらにはっきり見えるようになりました。

突然、『化学の結婚』の5日目の光景が私の心によみがえってきました。そのとき私は特別に許されて、四隅に柱が建てられた大きなベッドで深い眠りにについている、美の女神ビーナスを見るという名誉が私に与えられたのでした。精妙な光でできた人影が、私を出迎えるために近づいてきたのに気づいたとき、なぜこの光景が脳裏に浮かんだのかが分かりました。私がいる場所からエメラルド・グリーンの光が放たれていたのですが、それは、北極や南極に独特の輝きを与えているオーロラのような感じでした。その人影は、私の方を向いてこう言いました。

「金星のなす、大いなるわざをごらん下さい。はるか昔にあなたに命を与えたこの地球を、ついに平和が支配しました。国家も含めて、武器の使用は一切禁止されました。戦争というアイデアそのものが、統治者たちにとっても、統治される人たちにとっても、吐き気を催させるものとなりました。個人と個人の間でも、集団同士の間でも、友情を行動の動機にすることは、もはや空想的な理想ではありません。ひとりひとりの人は自分自身を高め、日常生活にそれを表現しています。人類はついに、普遍的な愛に調和して暮らしています。」

... Cosmica lex successit !

6. 金星の保護と助力のもとに。

第六の段階

Saturni auspiciis... (*7)

ち

私はこの段階に^{とど}留まって、もっと見続けていたかったのですが、卵は再び上昇し始めました。それが何かは、はっきりとは分からなかったのですが、卵からは意志か意図のようなものが発せられていることが感じられました。ガラスの厚みは、とても薄くなり、指を突き通せるのではないかと思うほどでしたが、卵を割ってしまうといけないので、あえてそうしようとは思いませんでした。ちなみに、私はこのとき、自分の感情と精神と心の奥に何が喜びをもたらしているのかを推測しようとしていました。

卵が静止し、美しさと清らかさが満ちあふれているときに感じるのと同じ畏敬の念が、わき起こってきました。そして地球を見つめれば見つめるほど、自分と地球がひとつであるという感覚、自分と人類全体がひとつであるという感覚に満たされました。ふたたび、光でできた人影が近づいてきて、私を出迎えました。発している^{すみれ}色の光によって、その人影は空気のように軽やかなものになっていました。その人影は言いました。

「土星のなす、大いなるわざをごらんなさい。科学は、人類の真の利益のために活動しています。そして科学が、自然への敬意を失うことは決してありません。科学は、すべての人の快適な暮らしと、健康と幸せの役に立つためだけにあり、生活の状態を改善することと、人々の理解、より具体的にいえば人々の知識を増やすことに貢献しています。言い換えれば、科学は根本から人道主義に基づくものになり、すべての人の幸せに、その努力を集中しています。」

... Cosmica lex successit !

7. 土星の保護と助力のもとに。

第七の段階

Solis auspiciis... ^(*8)



今までの体験から、この神秘的な夢は、それを見ているのは私であることに間違いはありませんが、何かを暗示するできごとと、数の意味についての知識と、対応の法則に基づいたある種のパターンに従って、全体的に展開しているのだということが分かってきました。そして、直観というよりは論理的に考えて、好奇心をそそり喜びに満ちた、私が体験している天界での上昇は、第7の段階が最後で、それで完了するのだと確信しました。そのため、卵が再び上昇し始めたとき、これが最後であり、その後は出発した元の世界に戻るしかないのだと思うと悲しくなりました。この悲しみは、私が最後の場面だと考えたところに卵が静止するまで続きました。

私はまだその中にいたのですが、卵は、実に静かに止まりました。ガラスは、もはや色がついていなければ分からないほど、一段と薄くなっていて、今は鮮やかな赤色になっていました。卵の色が、天界での上昇につれてなぜ濃くなっていくのかという謎を、いまだに私は解くことができなかったのですが、それを通して外に見えるものには、一切、変わりはありませんでした。これほどの高さからは、オーラに取り巻かれて輝いている地球を見ることはできませんでした。

そのとき、金色にきらめく精妙な光でできた人影が目の前に現れ、これまでと同じように、特徴的なほど物柔らかな口調で言いました。

「太陽のなす、大いなるわざをごらんなさい。宗教は、信仰ではなく知ることに基づくスピリチュアリティ (spirituality) に、永遠に道を譲りました。魂が存在するというのを、大部分の人が明らかな事実として受け入れています。他の魂と関わりあ

8. 太陽の保護と助力のもとに。

うことによって、この魂を進歩させるという目的のために、この地球上で暮らしているのだということを、ほとんどの人が知っています。父なる神、エホバ、アッラー、ブラフマー、あるいは、他のいかなる名前の神を崇拝するのでもなく、人の心の深奥と宇宙に働いている普遍的な法則という意味の聖なる法則を人々は理解し、それに沿って生きる努力をしています。人類は再生と、さらには再統合への道を順調に歩んでいます。」

... *Cosmica lex successit!*

「再生」と「再統合」という言葉が、私の心の中にずっとこだまし続けていると、宇宙の6つの方向から、先ほどの天界のそれぞれの段階で私の前に現れた、6体の非物質的な存在が現れました。そして先ほどから私に話しかけていた人影の周りを、円を描くように取り囲み、「オーン」(OM)という音声を、聞いたことのない音色で9回続けて詠唱しました。9回目の詠唱のとき、呪文にかかったように目を離すことのできない私の前で、7つの存在は互いに溶け合い、ひとつの白く輝く星が生じ、地球に向けてものすごい速さで飛び去り、地球が発しているオーラの光と混じり合いました。

しばらくすると、この光の中から翼を持つ巨大なものが上昇してくるのが見えました。近づいてくるにつれて、それはもはや疑いもなく、錬金術師たちが愛してやまない神秘の鳥、フェニックス(Phoenix:不死鳥)だということが分かりました。それが私の方へ近づいてくるのを見て、すぐにある図版のことを思い出しました。それは数日前に私が見返していたもので、元々は『バラ十字会員の秘密の象徴』に載っていた図版です。この本は18世紀に初版が印刷されたもので、それ以降、バラ十字会員に瞑想の題材を常に提供してきました。この図版には双頭のフェニックスが2羽描かれていて、一羽はくちばしに太陽をくわえ、もう一羽はくちばしに月をくわえています。

第七天を越えて *Phoenicis auspicis...* ^{(*)9}

古代から伝わる図版の絵のことを思い出しながら、私はフェニックスをじっと見つめていました。堂々たる羽をしているそのフェニックスは威厳に満ちており、その羽毛の色は、私がいまだにその中に浮かんでいる卵の色と正確に同じでした。そして、私がそれを見続けていると、卵は完全に非物質化したのか、あるいはエネルギーのようなものになったのか、私はひとりだけで取り残されてしまったことに気づきました。そのとたんに、息をのむほどの速さで私は虚空の中へと落ちていきました。間違いなく私は、地面に叩きつけられて死ぬでしょう……

そのほんのひとときの間には、今終わることになるこの人生の中でも、とても重要であった場面を再び体験しました。特に、バラ十字会員としての私の歩みに関係していた人たちと、私にとっても多くの喜びをもたらしてくれた親しい人たちに関わる場面を再び体験したのです。しかし、私はその体験を怖いとも名残り惜しいとも思いませんでした。死というものが、私たちの存在を永久に終わらせてしまうものではなく、単に魂が非物質的な領域へと移行するだけであるということを私は知っていました。本当のところ、私にはまだこの世界でなし遂げなければならぬことがあると感じていたのですが、しかし、それは後に取り組むことになるのでしょうか。また、この世界に生まれたときに。

まさに地面に叩きつけられようとした、その瞬間、何かが私をつかみました。見上げると、フェニックスが^{かぎづめ}鉤爪の間に私を柔らかにとらえ、私は命を救われたのです。さらにフェニックスはそのまま飛び続け、第七天を越えて、はるか遠くへと私を運び去ったのです。この天界での上昇で、輝くオーラに包まれ続けている地球だけでなく、一番小さな水星から最も大きな木星にいたるまで、太陽系の他の惑星も見ることができました。し

9. フェニックスの保護と助力のもとに。

かし、それらの惑星を私が知覚していた方法は、天文学者が用いるのと同じ感覚では決してなく、惑星から届く秘められたエネルギーを感じていたのであり、これまでに見てきたすべての惑星の意味と重要性も、さらに良く分かるようになりました。

フェニックスは地球を後にして、驚くべき速さで太陽に向かって飛んでいき、地球は広大な空間の中に輝く光の点にしか見えなくなりました。私とフェニックスは、太陽にますます近づいていきましたが、目がくらむことはなく、太陽を見続けることができました。また太陽の熱も、何の苦痛にもなることはなく、むしろ、エネルギーに変化したような印象でした。そして、もはや私は自分の肉体に気づくことはなく、自身が純粋な魂になったようにさえ感じるようになりました。このような自由さ、純粋さの感覚、心の平安は、これまでに体験したことが一度もありませんでした。

フェニックスと私が、まさに太陽に融けこんで行こうとしているとき、最高に意識がはっきりとした状態で、考えうる限りの強烈さで、この融合を体験する心の準備ができていました。このとき私は、並外れて美しい音楽を耳にしました。それと比べれば、人間の作り出した最も偉大な交響曲でさえ、子供の作曲かと思えてしまうほどのものでした。それは間違いなく、賢者の中の賢者であるピュタゴラスが心から愛した、「天球の音楽」でした。そして、神秘学の達人たちによく知られている、次の音楽の詩が心に浮かんできました。

*Ut queant laxis
Resonare fibris
Mira gestorum
Famuli tuorum
Solve polluti
Labbii reatum
Sancte ioannes*

この宇宙の歌によって気持ちを落ち着けることができ、私は安心して太陽の中に吸収されていくのに身をまかせました。とうとう、この目でフェニックスを初めて見ることができ、命が救われたこともそうですが、それ以上に、そのとき体験したことに感謝しました。まさにその瞬間、太陽とひとつになったような心を揺さぶられる感覚、さらに的確な言葉を使うとすれば、私の魂が太陽の魂と結ばれたという感覚がありました。こうして私は、あらゆるバラ十字会員があこがれている「化学の結婚」を体験したのです。そして、啓示が到来しました。心の中で、創造の始まりへと時間をさかのぼり、ビッグ・バンを目撃しました。驚くべき大爆発から宇宙が出現し、〈無限なるもの〉の領域の最も遠いところへと向かって膨張をし続けました。

また、創造主、すなわち、絶対なるもの、始まりも終わりもない知性、唯一の意識、唯一のエネルギーが、形作られた宇宙に、純粋で完璧な魂を吹き込んだのを見ました。この宇宙の魂は、あらゆる生き物に命を与え、測り知れないほどの永い歳月にわたり、宇宙に生き物が住むようになりました。そして明らかな事実として私が感じ、確かめることができたのは、宇宙には無数に多くの世界があり、私たちの世界はそのひとつに過ぎず、私たちの世界より進歩している世界もあれば、そうでない世界もあるということです。

それから、フィルムを早回しにしているかのように、地球が形作られていく大まかな様子も見ました。火の塊かたまりのような状態から始めて、今あるような大陸が形作られていきました。そして、生命の出現も目撃しました。最古の生物が海中で進化し、よく話題になる恐竜の時代を経て、人類そのものが出現しました。人間は、地球上の他の生物と無関係に進化したのでは決してありません。人間は、地球に生息していた最古の生物にまでさかのぼることのできる進化のプロセスの頂点にあたります。

人間の歴史の全体が、あらゆる国のあらゆる時代の歴史が、私の意識のスクリーンを通り過ぎていきました。しばらくの間、際立った出来事の多くに目を引かれていましたが、不思議なことに、そのすべてが前向きで建

設的なもので、“結婚”の前に私に示された素晴らしい光景のことを再び思い出しました。時間をめぐるこの旅によって、私はとても幸せな気持ちになり、私が人間に対して常にいただいていた信頼感が新たにされたのでした。人間には聖なる起源があり、人に命を与えている魂は、本質的に善なるものであることを私は知っています。

この旅も終わりに近づいてきたようで、クリスチャン・ローゼンクロイツという名前で私が最初に知られるようになった時代にいる自分自身を見ました。それはとても感動的で、私がバラ十字会を創設するように導かれた入門儀式的旅を再び体験しました。そこには、友愛組織の兄弟たちと私が、後世に伝えることを望んでいた知識を集めて整理するために共に費やした時間や、特に、私たちが『世界の書』を書き写し、それに私が自身の解説を付け加えた時間も含まれていました。

自身の死が、厳密に言えば自身の魂の移行が起こっている様子と、自身の体が横たわっている墓を、私は“外から”見ているのだという思いが生じたのですが、それは、すでに味わったことのある感覚でした。するとそのとき、車の警笛の音がして、私の眠りが突然、^{さえき}遮られたのです。まだ暗かったので、もう一度眠りに就こうかとも思ったのですが、夢で見たことをできるだけ正確に書き留めようと、起き上がったのでした。そして起きるとすぐに、時間と空間を超えたこの奇妙な旅の行程で、私が見て、聞いて、感じたことすべての意味について、夜明けまで熟考と瞑想をおこないました。そして、この夢をもたらせてくれた、私の心の中の〈創造主／神〉に感謝することも忘れませんでした。



この夢をあなたと分かち合いたいと思ったのは、それが多くの人に、有益な思索をもたらしてくれるかもしれないと考えたからです。私はよく承知しているのですが、この2016年の初めにおいて世界は、「天界での上昇」と私が呼んだ出来事の中に私が見た、のどかで素朴なビジョンからは遠く隔たっています。世界は多くの事柄において、かなり心配な状態にあります。これらのビジョンには、予知としての価値があるのでしょうか。それとも、人類全体の未来として私が個人的に望んでいる、ただの空想の現れなのでしょうか。その判断は、あなた自身におまかせします……。

たとえ完璧な未来ではなくても、住んでいる国にかかわらず、誰にとっても少なくとも今よりは望ましい世界を、夢見たことのない人がいるのでしょうか。もし私たちが真にそれを望むならば、その夢を現実にすることができます。もちろんそのためには、私たちが個人としても集団としても、適切に行動することが必要です。『クリスチャン・ローゼンクロイツの化学の結婚』が出版されてから、ちょうど400年後の、この『新たな結婚』は希望のメッセージですが、それと同時に、明日の人類はどのようになるのだろうか、そして、どのようにならなければならないかということ、今、想像してはいかでしょうかというお誘いなのです。まさにこの思いに駆り立てられて、私の夢の内容をあなたにお伝えしたのです。

おそらくあなたのご存じのことでしょうが、過去の錬金術師たちは、〈賢者の石〉(Philosophers' Stone)を使って、卑金属を純金に変える作業に主に取り組んでいました。この賢者の石とは、主に7段階からなる作業を経て得られる極めて純粋な〈実体〉(Substance)です。しかし、私もそうですが錬金術師の一部は、物質的な錬金術ではなく、精神的な錬金術に熱心に取り組んでいました。これらの人々たちにとって重要だったのは純金を得ることではなく、英知を得ることでした。この目標は、あなたの身近にいる現代のバラ十字会員に受け継がれています。バラ十字会員たちが、世界をより良くするために役立つことを、どれほど深く望んでいるかを私はよく知っています。

バラ十字会 AMORC によって、2001 年に公表された『バラ十字友愛組織の姿勢』には、錬金術について次のように書かれています。

「きっとみなさんもお存知のように、過去のバラ十字会員たちは物質的な錬金術を実践していました。それは錫や鉛のような卑金属を黄金に変換することでした。しばしば見落とされることがありますが、彼らは精神的な錬金術にも自身を捧げていました。現在のバラ十字会員は、精神的な錬金術を最も重要視しています。というのも、世界は今まで以上にそれを必要としているからです。精神的な錬金術とは、先ほど述べたさまざまな美德をしっかりと身につけるために、人間のあらゆる欠点をその反対の性質へと変換することです。実際に、そのような美德が人間の尊厳の基礎を築いているのだと私たちは信じています。というのも、自分自身の考え方や言葉や行動に、そのような美德を表わすことができたときだけ、人間はその地位にふさわしいと考えているからです。ひとりひとりの宗教的信念や政治的観念、あるいは他の思想がどのようなものであっても、全ての人がこれらの美德を身につけようと努力するならば、間違いなくこの世界は今よりも良くなっていきます。」

2014 年にバラ十字会 AMORC は、『バラ十字友愛組織からあなたへの訴え』という題の第 2 の宣言書を公表しました。『信条告白』が『声明』を補足するために出されたように、この『あなたへの訴え』も『姿勢』を補足しており、また、先ほどの数ページであなたに物語った夢の内容とも無関係ではありません。第 2 の宣言書にはこの夢を解く鍵が含まれており、この夢、すなわちこの理想 (Utopia) を現実にするための道筋が示されているとさえ言うことができます。私は、この『あなたへの訴え』を読んで、その内容についてじっくりと考えてみました。あなたも同じようにされて、この『新クリスチャン・ローゼンクロイツの化学の結婚』が意味していることを、あなた自身の手で完全に明らかにしてくださることをお勧めしま

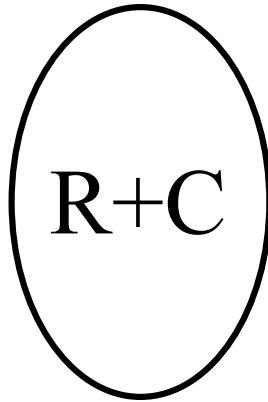
す。ですから、ご参考として、以下に『あなたへの訴え』からの短い引用をお示しします。

「人類学者によると、今の私たちに最も近い『現世人類』が出現したのは約 20 万年前です。人ひとりの一生の長さに比べると、人類は老齢のように思えますが、進化の周期に照らして考えれば、現世人類はまだ思春期にあります。そして、その時期の特徴を余さず示しており、たとえば、自分とは何者か、自分にはどのような運命が待ち受けているのかといったことを模索しています。その反面、無責任なくらい呑気^{のんき}で、永久に生き続けられるかのように錯覚し、好きなだけ羽目を外し、ものの道理を否定し、社会常識など意に介しません。しかし、進化のこの段階では、この時期なりの困難や試練や挫折に直面しながらも、この時期にしか味わえない充実感や達成感や希望にあふれています。そしてこの時期は、成長し、一人前になり、花を咲かせ、ついには人類自体の資質を十分に発揮するために欠かすことのできない通過点なのです。しかし、そのためには、大人にならなければなりません。」

以上の考えをお伝えしましたので、これ以上あなたを煩^{わづら}わせるのは止めにして、私も自分の仕事を続けることにします。最初に申し上げたように、私はバラ十字会の行く末を見守り続けています。おそらくいつの日か、あなたと私が互いに知り合う時が来ることでしょう。それはさておき、私からあなたに友情の想いを送ります。深遠なる心の平安のために、あなたのすべての良き望みがかなえられますように。そして、世界全体のために、できるかぎり良い未来が実現しますように……。

! Δ π ε τ ο υ ρ α ♪

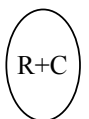
2016年1月6日に調印



バラ十字暦3368年

日本語版第一刷発行：2016年4月
発行者：バラ十字会日本本部 AMORC
www.amorc.jp

© Supreme Grand Lodge of AMORC





®